

## 2018年度春季大会シンポジウム報告

### 「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」

#### はじめに

坪井 一寛\*・斉藤 和雄\*\*

近年、集中豪雨や台風などによる災害が毎年のように発生しており、2018年7月にも西日本を中心に広範囲で豪雨による甚大な災害が発生している。地球温暖化が進むにつれて災害につながる気象現象の頻度や強度、発生場所が変化することが懸念されており、その対策は重要な課題となっている。一方、近年の観測技術、予測技術、ICT技術の発展には目覚ましいものがあり、気象関連災害に対する防災・減災のあり方も大きく変わろうとしている。

国土交通省は2017年1月に『新たなステージに対応した防災・減災のあり方』をとりまとめた。これを受けて、交通政策審議会気象分科会は、同年7月に『『新たなステージ』に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方』を気象庁への提言としてとりまとめた。さらに、2018年からは、「2030年の科学技術を見据えた気象業務のあり方」についての審議を行い、8月には今後10年程度を展望した気象業務の方向性として、観測・予測精度向上のための技術開発、気象情報・データの利活用促進、及び防災対応・支援の推進等についての取組を進める、とする提言をまとめている。

これらの状況を受けて、日本気象学会では2018年度

春季大会においてシンポジウム「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」を開催した。シンポジウムでは、気象現象を的確に把握するための観測技術、それらを正確に予測する技術、それに起因する気象災害を予測する技術、得られた情報を利活用・提供し国民の安全・行動につなげる研究までの一連の流れに沿って、第一線で活躍している5名の専門家から基調講演を頂くとともに全員参加による討論を行い、今後10年程度先を見通したときに期待されうる気象観測・予測技術の未来について展望した。

#### 基調講演

1. 「豪雨に関する防災情報を支える観測・予測技術の現状」  
小泉 耕（気象庁気象研究所）
2. 「防災のための次世代の観測技術」  
鈴木 修（気象庁気象研究所）
3. 「次世代スーパーコンピュータとビッグデータが拓く未来の気象予測」  
三好建正（理化学研究所）
4. 「水災害発生過程と予測の必要性」  
小池俊雄（土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター）
5. 「災害情報の共有と利活用」  
臼田裕一郎（防災科学技術研究所総合防災情報センター）

\* 気象庁気象研究所。

ktsuboi@mri-jma.go.jp

\*\* 東京大学大気海洋研究所。

k\_saito@aori.u-tokyo.ac.jp

—2018年9月20日受領—

—2019年7月15日受理—

総合討論

---

The Perspective of Observation and Short-term  
Prediction in the Future for Prevention and Mitigation of  
Meteorological Disasters  
(A Report on the Symposium of the 2018 Spring  
Assembly of the Meteorological Society of Japan)

Kazuhiro TSUBOI\*, Kazuo SAITO\*\*

\* *Meteorological Research Institute, Japan Meteorological Agency, 1-1  
Nagamine, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0052, Japan.  
E-mail : ksuboi@mri-jma.go.jp*

\*\* *Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo, 5-1-5  
Kashiwanoha, Kashiwa-shi, Chiba 277-8564, Japan.  
E-mail : k\_saito@aori.u-tokyo.ac.jp*

(Received 20 September 2018 ; Accepted 15 July 2019)

### Contents

1. Ko KOIZUMI: Current Status of Observation and Forecast Technology for Prevention and Mitigation of Heavy-rain Disaster
  2. Osamu SUZUKI: Emerging Observing Technologies for Disaster Prevention/Mitigation
  3. Takemasa MIYOSHI: Next-generation Supercomputer and Big Data Pioneering the Future of Weather Prediction
  4. Toshio KOIKE: Need for Improved Understanding and Prediction of Water-related Disasters
  5. Yuichiro USUDA: Information Sharing and its Applications for Disaster Resilience
-